

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	あいち小児保健医療総合センター救	階数	地上3F 地下1F PH1F
建設地	大府市森岡町尾坂田1-2他8筆	構造	RC造
用途地域	市街化調整地域、法22条区域	平均居住人員	192 人
気候区分	地域区分IV	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	病院	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2015年9月 予定	評価の実施日	2014年3月28日
敷地面積	14,802.87 m <sup>2</sup>	作成者	吉川 浩正
建築面積	2,007.10 m <sup>2</sup>	確認日	2014年3月29日
延床面積	6,869.91 m <sup>2</sup>	確認者	篠原 佳則



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 2.0**

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub> (温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100% (100 kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

②建築物の取組み 67% (67 kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

③上記+②以外の 67% (67 kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

④上記+ 67% (67 kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです。

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q 環境品質** Qのスコア = 3.7

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.3

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.7

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 4.4

**LR 環境負荷低減性** LRのスコア = 3.6

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.9

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.5

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.4

### 3 重点項目

<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">4.3</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">4.0</p> <p>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</p> <p style="text-align: center; font-size: 1.5em;">43.6 %</p> <p>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</p> <p style="text-align: center; font-size: 1.5em;">0.0 %</p>
<h4>②資源の有効活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">3.6</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">3.0</p> <p>&lt;外装材に使用した地域性のある材料&gt;</p> <p>なし</p> <p>&lt;建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材&gt;</p> <p>県産材(スギ)</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮

LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用

Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性

LR-2 2 非再生性資源の使用削減

③敷地内の緑化

Q-3 1 生物環境の保全と創出

④地域材の活用

Q-3 2 まちなみ・景観の配慮 4) 地域性のある素材による良好な景観形成

外構緑化指数 =  $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積} - \text{建物面積(建築面積及び附属物面積)}} \times 100$

建物緑化指数 =  $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$



スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	県独自基準	重点項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	
<b>Q 建築物の環境品質</b>								<b>3.7</b>
<b>Q1 室内環境</b>								<b>3.3</b>
<b>1 音環境</b>								<b>3.0</b>
<b>1.1 騒音</b>								
1 室内騒音レベル					3.0	1.00	3.0	1.00
2 設備騒音対策					-	-	-	-
<b>1.2 遮音</b>								
1 開口部遮音性能					3.0	0.40	3.0	0.40
2 界壁遮音性能					3.0	0.60	3.0	0.30
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)					3.0	-	3.0	0.20
4 界床遮音性能(重量衝撃源)					3.0	-	3.0	0.20
<b>1.3 吸音</b>								
					3.0	0.20	3.0	0.20
<b>2 温熱環境</b>								<b>3.0</b>
<b>2.1 室温制御</b>								
1 室温					3.0	0.50	3.0	0.50
2 負荷変動・遅延制御性					3.0	0.38	3.0	0.57
3 外皮性能					3.0	-	3.0	0.43
4 ゾーン別制御性					3.0	0.25	3.0	0.43
5 温度・湿度制御					3.0	0.38	-	-
6 個別制御					-	-	-	-
7 時間空調に対する配慮					-	-	-	-
8 監視システム					-	-	-	-
<b>2.2 湿度制御</b>								
					3.0	0.20	3.0	0.20
<b>2.3 空調方式</b>								
					3.0	0.30	3.0	0.30
<b>3 光・視環境</b>								<b>2.7</b>
<b>3.1 昼光利用</b>								
1 昼光率					3.0	0.30	3.0	0.30
2 方位別開口					3.0	0.60	3.0	0.60
3 昼光利用設備					3.0	-	3.0	-
4 昼光利用設備					3.0	0.40	3.0	0.40
<b>3.2 グレア対策</b>								
1 照明器具のグレア					2.0	0.30	3.0	0.30
2 昼光制御					2.0	1.00	3.0	1.00
3 織り込み対策					-	-	-	-
<b>3.3 照度</b>								
					3.0	0.15	3.0	0.15
<b>3.4 照明制御</b>								
					3.0	0.25	3.0	0.25
<b>4 空気環境</b>								<b>4.6</b>
<b>4.1 発生源対策</b>								
1 化学汚染物質				全て、F☆☆☆☆を利用	5.0	0.50	5.0	0.63
2 アスベスト対策					5.0	1.00	5.0	1.00
3 タニコヒ等					-	-	-	-
4 レンオネラ対策					-	-	-	-
<b>4.2 換気</b>								
1 換気量					4.0	0.30	3.6	0.38
2 自然換気性能					3.0	0.50	3.0	0.33
3 取り入れ外気への配慮				給気口は、排気口から6M以上、離して計画	5.0	0.50	5.0	0.33
4 給気計画					-	-	-	-
<b>4.3 運用管理</b>								
1 CO <sub>2</sub> の監視					5.0	0.20	-	-
2 喫煙の制御				敷地内禁煙	5.0	1.00	-	-
<b>Q2 サービス性能</b>								<b>3.7</b>
<b>1 機能性</b>								<b>3.8</b>
<b>1.1 機能性・使いやすさ</b>								
1 広さ・収納性				病室は、20㎡/床以上を確保	3.0	0.40	5.0	0.60
2 高度情報通信設備対応					3.0	-	5.0	1.00
3 バリアフリー計画					3.0	-	3.0	-
4 バリアフリー計画					3.0	1.00	3.0	-
<b>1.2 心理性・快適性</b>								
1 広さ感・景観				病室の天井高さは、2.7m	5.0	0.30	5.0	0.40
2 リフレッシュスペース					3.0	-	5.0	0.50
3 内装計画				既設棟の病院らしくない様相に合わせた、小児総合病院としての	3.0	-	3.0	-
4 内装計画					5.0	1.00	5.0	0.50
<b>1.3 維持管理</b>								
1 維持管理に配慮した設計				掃除やメンテナンスが容易なノンワックスの長尺シートを採用	3.5	0.30	-	-
2 維持管理用機能の確保					4.0	0.50	-	-
3 衛生管理業務					3.0	0.50	-	-
4 衛生管理業務					-	-	-	-
<b>2 耐用性・信頼性</b>								<b>3.5</b>
<b>2.1 耐震・免震</b>								
1 耐震性					3.4	0.48	-	-
2 免震・制振性能				免震構造	3.0	0.80	-	-
3 免震・制振性能					5.0	0.20	-	-
<b>2.2 部品・部材の耐用年数</b>								
1 躯体材料の耐用年数					3.1	0.33	-	-
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔					3.0	0.23	-	-
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔					3.0	0.23	-	-
4 主要内装仕上げ材の更新必要間隔					3.0	0.09	-	-
5 空調換気ダクトの更新必要間隔				ステンレスダクトを採用	5.0	0.08	-	-
6 空調・給排水配管の更新必要間隔					3.0	0.15	-	-
7 空調・給排水配管の更新必要間隔					3.0	0.23	-	-

2.4 信頼性				4.6	0.19				
1	空調・換気設備		②	重要度に応じた系統の区分け、免震建物内で完結した設備系 井水の雑用水利用、災害時の汚水槽・井水飲用化・蓄熱槽雑用 自家発電、無停電電源、既設棟との受変電設備の二重化	4.0	0.20			
2	給排水・衛生設備			5.0	0.20				
3	電気設備			5.0	0.20				
4	機械・配管支持方法			5.0	0.20				
5	通信・情報設備			4.0	0.20				
3 対応性・更新性				3.6	0.29	4.2	1.00	3.7	
3.1 空間のゆとり				3.4	0.31	3.4	0.50		
1	階高のゆとり		②	階高は、最小部分で4.0m	5.0	0.60	5.0	0.60	
2	空間の形状・自由さ			1.0	0.40	1.0	0.40		
3.2 荷重のゆとり				3500N/㎡を確保	4.0	0.31	5.0	0.50	
3.3 設備の更新性					3.6	0.38			
1	空調配管の更新性				3.0	0.17			
2	給排水管の更新性			3.0	0.17				
3	電気配線の更新性			5.0	0.11				
4	通信配線の更新性			5.0	0.11				
5	設備機器の更新性			3.0	0.22				
6	バックアップスペース			4.0	0.22				
バックアップスペース				4.0	0.22				
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.30	-	-	4.4	
1 生物環境の保全と創出		●	③	既存雑木林の保全と建物と雑木林との一体的な環境づくりに配慮	4.0	0.30	-	4.0	
2 まちなみ・景観への配慮		●	④	公共建築賞優秀賞の既設棟の様相にあわせた計画	5.0	0.40	-	5.0	
3 地域性・アメニティへの配慮					4.0	0.30	-	4.0	
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		●	④	県産材の利用、庇で囲うロータリー	4.0	0.50	-		
3.2 敷地内温熱環境の向上				伸びやかな敷地での高い空地率と緑豊かな環境	4.0	0.50	-		
LR 建築物の環境負荷低減性					-	-	-	3.6	
LR1 エネルギー					-	0.40	-	3.9	
1 建物の熱負荷抑制				PAL低減率15%	4.0	0.30	-	4.0	
2 自然エネルギー利用					3.0	0.20	-	3.0	
2.1 自然エネルギーの直接利用					3.0	0.50	-		
2.2 自然エネルギーの変換利用					3.0	0.50	-		
3 設備システムの高効率化				ERR=42.5%	5.0	0.30	-	5.0	
集合住宅以外の評価(ERRIによる評価)					5.0				
集合住宅の評価				ERR=42.5%					
4 効率的運用					3.0	0.20	-	3.0	
4.1 モニタリング					3.0	0.50	-		
4.2 運用管理体制					3.0	0.50	-		
LR2 資源・マテリアル					-	0.30	-	3.5	
1 水資源保護					3.4	0.15	-	3.4	
1.1 節水				節水型器具を採用	4.0	0.40	-		
1.2 雨水利用・雑排水等の利用					3.0	0.60	-		
1 雨水利用システム導入の有無					3.0	0.67	-		
2 雑排水等利用システム導入の有無					3.0	0.33	-		
2 非再生性資源の使用量削減					3.8	0.63	-	3.8	
2.1 材料使用量の削減					3.0	0.07	-		
2.2 既存建築躯体等の継続使用					3.0	0.24	-		
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用					3.0	0.20	-		
2.4 非構造材料におけるリサイクル材の使用		●	②	あいくる認定材	5.0	0.20	-		
2.5 持続可能な森林から産出された木材					2.0	0.05	-		
2.6 部材の再利用可能性向上への取組		●		OAフロア、可動間仕切りを部分的に計画	5.0	0.24	-		
3 汚染物質含有材料の使用回避					3.0	0.22	-	3.0	
3.1 有害物質を含まない材料の使用					3.0	0.32	-		
3.2 フロン・ハロンの回避					3.0	0.68	-		
1 消火剤				サーバー室に不活性ガス消火設備を計画	4.0	0.33	-		
2 発泡剤(断熱材等)					2.0	0.33	-		
3 冷媒					3.0	0.33	-		
LR3 敷地外環境					-	0.30	-	3.4	
1 地球温暖化への配慮			①	ライフサイクルCO2の削減に配慮	4.3	0.33	-	4.3	
2 地域環境への配慮					2.6	0.33	-	2.6	
2.1 大気汚染防止					3.0	0.25	-		
2.2 温熱環境悪化の改善					2.0	0.50	-		
2.3 地域インフラへの負荷抑制					3.7	0.25	-		
1 雨水排水負荷低減		●		余裕のある調整池の容量を確保、透水性舗装の採用	4.0	0.25	-		
2 汚水処理負荷抑制		●		ロータリーにバス停、タクシー乗り場を集約、患者・サービスマン動線を	3.0	0.25	-		
3 交通負荷抑制					5.0	0.25	-		
4 廃棄物処理負荷抑制					3.0	0.25	-		
3 周辺環境への配慮					3.2	0.33	-	3.2	
3.1 騒音・振動・悪臭の防止					3.0	0.40	-		
1 騒音		●			3.0	0.33	-		
2 振動		●			3.0	0.33	-		
3 悪臭					3.0	0.33	-		
3.2 風害・砂塵、日照阻害の抑制					3.0	0.40	-		
1 風害の抑制					3.0	0.70	-		
2 砂塵の抑制					3.0	-	-		
3 日照阻害の抑制					3.0	0.30	-		
3.3 光害の抑制					4.4	0.20	-		
1 屋外照明及び屋内照明のうららに漏れる光への対策				「光害対策ガイドライン」・「公告物照明の扱い」を満足する計画、	5.0	0.70	-		
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策					3.0	0.30	-		

**重点項目スコアシート**

実施設計段階

■使用評価マニュアル CASBEE-あいち(2011年度版)

あいち小児保健医療総合センター救急棟

■評価ソフト: CASBEE-NCb\_2011v.1.3\_aichi

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
<b>① 地球温暖化対策</b>				<b>4.3</b>
LR3-1	地球温暖化への配慮	4.3	0.10	
<b>② 資源の有効活用</b>				<b>3.6</b>
Q2-2	耐震性・信頼性	3.5	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.6	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.8	0.19	
<b>③ 敷地内の緑化</b>				<b>4.0</b>
Q3-1	生物環境の保全と創出	4.0	0.09	
<b>④ 地域材の活用</b>				<b>3.0</b>
		(評価ポイント)		
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	2.0	-	

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化  
重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和  
重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

計画上の配慮事項	
総合	<p>注) 設計における総合的なコンセプトを簡潔に記載してください。</p> <p>「子どもや家族を暖かく迎え入れる、信頼感のある、子ども病院」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもを守る医療の砦としての病院づくり・あらゆる救急患者を受け入れる建物づくり</li> <li>・子どもと家族の為の療養環境づくりとスタッフが働きやすい環境づくり</li> <li>・LCCに配慮した施設づくり・災害時、非常時に医療を継続できる病院づくり</li> </ul>
Q1 室内環境	<p>注) 「Q1 室内環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <p>患者の療養環境、スタッフの医療環境に配慮して、偏りのないバランスの良い室内環境の確保に結び付けている。</p>
Q2 サービス性能	<p>注) 「Q2 サービス性能」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <p>BCPにおいて、免震構造、井水利用、雑用水の飲適化、汚水槽の設置を計画している。十分な天井高さを確保し、患者やスタッフの室内環境の向上に結び付けている。</p>
Q3 室外環境(敷地内)	<p>注) 「Q3 室外環境(敷地内)」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <p>敷地内の雑木林を傷めないように、建物を計画している。</p> <p>雑木林に生息するホタルはじめ、種々の生物の保全に配慮した計画としている。</p> <p>病室の窓は、雑木林が見えるように低く設け、患者の療養環境の向上にも結び付けている。</p>
LR1 エネルギー	<p>注) 「LR1 エネルギー」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <p>一般的な仕様にて、計画している。</p>
LR2 資源・マテリアル	<p>注) 「LR2 資源・マテリアル」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <p>あいくる材認定品の活用に積極的に努める計画としている。</p>
LR3 敷地外環境	<p>注) 「LR3 敷地外環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <p>バス停やタクシー乗降場を建物入口近傍に設け、公共交通機関の活用を促す計画としている。</p> <p>また、一般動線とサービス動線とを明確に分離した計画としている。</p>
その他	<p>注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。</p> <p>特になし。</p>